

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○	○		○	○	○			○		○		

企業の概要

企業・団体名	ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社	本社所在地	東京都
業種	製造業	総従業員数	約500名
事業概要	ラックス、ダヴ、紅茶のリプトンなどの製造・販売		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	就業規則
テレワーク担当部署	人事
テレワーク対象者	工場・営業の一部を除く全社員
実施者数	約360人(全社人数の約70%)
平均実施日数	月4回以上8回未満程度(概ね週1~2回)

テレワークの導入・拡大の経緯

取り組みを始めたきっかけは、ユニリーバをより強く、より働きがいのある企業にするため。ユニリーバは、世界全体で「環境負担を減らし、社会に貢献しながらビジネス成長する」というビジョンを掲げている。その実現には、多様な人材が自分らしく生き生きと働きながら、1つのチームとして最大限能力を発揮することが不可欠である。そして、社員それぞれが人生を楽しみ、健康で豊かな人生を送るような環境を作ることは、社員の生産性や働きがい、ひいては企業としての競争力につながる。そこで、従来の「フレックスタイム制度」(2005年導入)や「在宅勤務制度」(2011年導入)をさらに一歩進め、働く場所・時間を社員が自由に選べる働き方「WAA(Work from Anywhere and Anytime)」を2016年7月から導入・推進している。2019年7月からは、全国6つの自治体と提携し、ユニリーバ式のワーケーション「地域 de WAA」を開始。

テレワークの概要・特徴

2016年7月から、働く場所・時間を社員が自由に選べる、全く新しい働き方「WAA(Work from Anywhere and Anytime)」を導入・推進している。社員の91%が一度でも「WAA」を実施。それぞれのライフスタイルに合わせて制度が活用されている。社員の67%が「新しい働き方がスタートして毎日の生活が良くなった」、75%が「生産性が上がったと感じる」と回答。実際の時間外労働時間も導入前に比べて10-15%減ったが、会社として売り上げの成長を継続している。社外向けの「WAA」説明会、「Team WAA!」を通じて、自社の「働き方改革」を模索している企業、「WAA」に似た制度の導入を検討している企業・団体・個人をサポート。現在1,000名以上がメンバーとして参画し、毎月セッションを開催している。2019年7月より、働く場所の選択肢を一層広げ、普段とは違う場所・環境で人々と交流するとともに、ユニリーバと地方の双方がそれぞれの強みや経験を活かし、地域に根差した新しいイノベーションやビジネスモデルを生みだしていくこと、そして何より社員一人ひとりのウェルビーイングの向上を目指しユニリーバ式のワーケーション「地域 de WAA」を導入。

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

- 社員の9割が制度を活用。幸福度や生産性が上がり、残業時間が減った。「WAA」導入後の社員アンケートから、社員がそれぞれのライフスタイルに合った働き方を選び、生産性を高めていることが分かっている。また導入前に比べて残業時間が減っている一方で、売り上げ成長が続いている。
参考: 制度導入10ヶ月後のアンケート結果
- 91%が一度でもWAAを実施(うち88%が時差通勤やテレワークを実施)
- 67%が「新しい働き方がスタートしてから毎日の生活が良くなっている」と感じている
- 75%が「生産性が上がった」と感じている(下がったと感じているのは3%)
- 29%が「労働時間が減った」と感じている(長くなると感じているのは7%)
- 実際の残業時間も導入前と比べて10-15%減
- 通勤時間の割愛や時差通勤、育児・介護、病院・通院、趣味などの活用
- 社員の声の例(通勤関連)
“通勤地獄を避けることが可能というだけで、安らかな気持ちになる”
“通勤時間を家族との時間や趣味の時間に充てることができて大変有意義”